

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現する	鎌倉市
アイデア名(注2) (公開)	市内の空き家を活用してシニア世代・障がい者の労働参加拡大 ～共生社会かまぐらの実現へ～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	共生社会かまぐら実現プロジェクト		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	8名		
代表者情報		新川智哉	
メンバー情報	氏名(公開)	屋ヶ田友紀、渡邊磨哉、高橋享佑、豊田珠希、川本裕之、服部浩、矢作修	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
  - 「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
  - (具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

#### ○背景

少子高齢化が進む社会のなかで、シニア世代の生涯現役を目指す雇用の拡大、障がい者の就労支援の環境づくりを通して、地域コミュニティの地域力を高めて、「共生社会かまくら」を実現する。

市内の空き家活用の課題と、地域のコミュニティを結集して社会的課題の解決について共に考え、共に実行する。地域住民が自分のこととして考え、実行する。

#### ○概要

鎌倉市内にある空き家（旧邸宅）を再利用して、テレワーク、コワーキングスペース、

シニア・地域住民・施設利用者の対話スペース（無料）などの機能を持つ複合施設をつくる。

その複合施設をNPO法人や、事業所、シニア世代が協力して下記の①～⑥までの要素がコミュニケーションできる「たまり場」を作り出し、地域コミュニティの人々の力を結集して課題の解決・運営する。

#### 課題解決のイメージ

- ① 市民：テレワークを通して、コワーキングサービスの参加者として、共生社会を実現する。
- ② 大学：共生社会実現プロジェクトと共にケータイアプリの開発。及びプログラム開発。
- ③ NPO法人・事業者：市民と共に、空き家を活用して活動拠点を作り出し、運営する。
- ④ 行政：共生社会実現プロジェクトとともに、情報を共有しプロジェクトの実現を支援する。
- ⑤ IT化：ケータイのSNSを通して、情報伝達を進化させる。双方向の伝達のスピード化。
- ⑥ シニア世代・障がい者：働くことを自分のこととして捉え、できることからトライする。



#### 課題解決のゴール

- ① 市民が共生社会の情報を提供し、自分のこととして、ともに参加する。
- ② 大学生が参加した共生社会の実現のためのアイデアの提供、授業の一環としての、プログラムの開発。
- ③ NPO法人・事業者が協力して、シニア世代・障がい者の就労支援を実施。
- ④ 行政として、地域社会のための、具体的な指針づくり、コミュニティの牽引役。
- ⑤ ITリテラシーを高め、SNSを通して、6者間の情報を共有し、コミュニケーションを高める
- ⑥ シニア世代・障がい者の社会的弱者も、生き生きとしてはたらける、地域の共生社会を実現するメンバーとなる。

**6つの要素が共に、共生社会の実現に向かう！**

## ○シニア世代の仕事について

### ① 鎌倉市のシニアを中心にテレワークの実施

コールセンター業務(子育て中の母も可能)、データ入力など

テレワーク実施企業用スペースと市民向けのコワーキングスペースの、働く人のスペースの確保、地域で交流する人たちのスペース。

専門職のデザイナー、ライター、カメラマン、プランナーなどの人たちが有料スペースとして利用。

複合施設の運営費にもあてる。

### ② スマートフォンアプリを活用 シニア世代の登録(専門的な便利屋さんの事業を超える身近な相談事)

行政サービスだけではできない、困ったことをITを活用して、シニア世代が解決する。

・まちのシニアの便利屋さん スーパーや商店街への 買い物補助・留守番・電球の付け替え・

その他短時間のお手伝い的なもの(掃除・洗濯など)

### ③ シニアの就労の場の創出

例 1) 手作業による自家用車の洗車サービス(市役所の駐車場で、試験的に試してみる。

・自宅駐車場でかける。手拭き・手洗い・ワックスかけ・車内清掃(手持ち掃除機)

・駐車場とタイアップ(入口で勧誘) 内容は上記と同じ。利便性は駐車場の方があがる。

注目され、忙しくなると、作業をするシニア世代を増員。

例 2) 鎌倉郷土玩具づくり

デジタルアプリケーション技術を活用する。鎌倉という土地が持つ数ある風土や歴史からモチーフを選び、観光客向けのお土産としてはもちろん、若い世代へ鎌倉を伝える郷土玩具を作り販売する。

## ○知的障がい者の就労について

障がい者の雇用を拡大することで、市民全体で課題の解決に取り組む。

⇒廃家電を手分解によってリサイクルする

千葉県印西市の(株)本塾共進の事例に倣い、廃家電の手分解リサイクルを行う。

(機械で解体するよりもリサイクル率が非常に高く、解体・分別された売却益は、それぞれ解体・分解を担当している障がい者本人に支払われる。千葉県では船橋から始まり、市川でも始まっている。家電リサイクルで自治体と障がい者が連携しているのは、2 例目。)

鎌倉市でもこの方式を導入して、このモデル事業を各自治体に広めていきたい。

## 鎌倉市内にある空き家を活用し、以下の機能を持った複合施設の立ち上げ

① シニア世代の仕事の発信基地。無料で利用できるコミュニティスペースも確保する

② 知的障がい者の職場を作り出し、手作業の廃家電リサイクルの仕組みを作り、収益を上げる。

③ コワーキングスペースを確保し、市民・大学生・シニア世代が同居して、コミュニティの場とする。

④ ①から③までの複合施設を組み合わせ、空き家を活用する。

この場を活用して、シニアのためのビジネスのプレゼン、求人の紹介、独自のビジネスのアイデアの構築。

NPO法人 minamo や事業所が具体的にこの場を運営する

⑤ 手作業の自家用車清掃スタッフの募集。障がい者の手分解による廃家電リサイクル事業の参加者の募集。

## (2) アイデアの理由 (公開)

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### ○アイデアの論拠

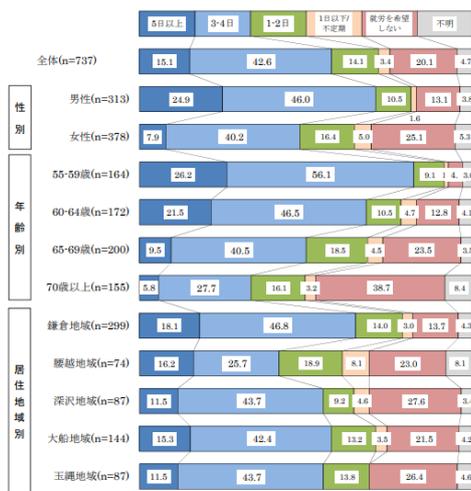
全国的に少子高齢化が進んでおり、人口問題研究所がH29年4月に公表した人口数によると、平成27年(2015年)の1億2709万人を最高に、毎年減少が始まっている。平成65年(2050年)には1億人を割り込んで、9924万になると推計されている。

鎌倉市も例外ではなく、平成27年現在174050人の人口はこの先減少し、30.9%の高齢化率は増加していく。(平成28年「鎌倉市人口ビジョン」より)

この少子高齢化が進む中で、労働力の不足が深刻な課題となっており。とくに個人商店・小企業における人手不足も毎日のように話題に上がっている状況である。

鎌倉市には、意欲のある、さまざまなスキルをもったシニア世代(65歳以上)が多く住んでいる  
 → (左下、平成29年「鎌倉市のシニア世代の就労についてのアンケート調査報告書」。その他、今後の就労については「就労したい」が37.7%、「できれば就労したい」が21.7%で合計59.4%が就労希望あるいは就労し続ける希望を持っている。)

図表 21： 問12.今後就労する場合、どの程度を希望しますか(1)日数



メンバーの友人の子どもや、近所の生活圏の中にもダウン症・障がい者の子どもがいたり、この課題は私たちにとっても身近な事、自分たちのこととしてテーマの中に入ってきた。

鎌倉市の課題にもある通り「住みたい・住み続けたいまち」鎌倉を実現するために、障がい者の就労の機会を構築し、市民全員で共生社会の実現を目指す。

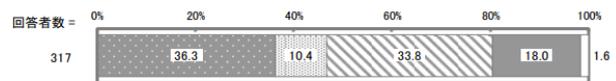
鎌倉市の空き家を活用し、コミュニティの場を作りながら、シニア世代・障がい者が就労に就き、労働に参加できるまちづくりを考えた。

このアクティブシニアの「つながりの場」を作りながら、活動の幅を広げていければと考える。

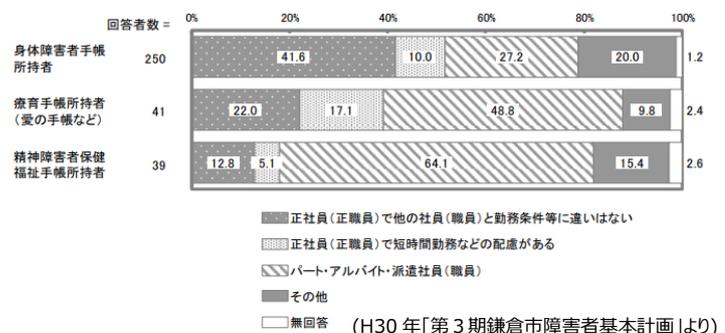
鎌倉最大の資源は「人」として鎌倉市も言っており、専門知識、豊富な経験をもったシニア世代が多く暮らしている。

今回、私たちのプロジェクトの名前のとおり、市民が中心になり生き生きとした、共生社会を実現するという目的をもった、若い仲間も集まることできた。行政の機関で働きたいという若い大学生を中心に、障がい者の雇用という課題も自然に浮かび上がった。

資料 7-1 勤務形態について



資料 7-2 勤務形態について (障害別)



■ 正社員(正職員)で他の社員(職員)と勤務条件等に違いはない  
 ■ 正社員(正職員)で短時間勤務などの配慮がある  
 ■ パート・アルバイト・派遣社員(職員)  
 ■ その他  
 □ 無回答 (H30年「第3期鎌倉市障害者基本計画」より)

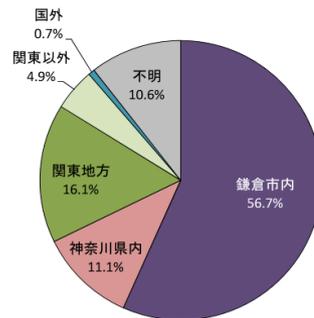
### ○シニア世代

鎌倉市の空き家を活用して、シニア世代のコミュニケーションの場を作り出す。

この場を活用して、シニアのためのビジネスのプレゼン、求人の紹介、独自のビジネスのアイデアの構築、コワーキングスペース化でシニアの働く場とする。

(また、前述の「鎌倉市のシニア世代の就労についてのアンケート調査報告書」より、就労する場合重視する条件は「就労場所が通いやすいこと」が 61.3%、「勤務日数・時間の融通が利くこと」が 53.3%となっていたため、電車等でアクセスのよい鎌倉市内の空き家で行うべき)

■空き家所有者の現居住地  
(所有者アンケートより)



### ■本市の空き家の状況 (平成25年)

(戸)

総住宅数 (A)	空き家数				空き家総数 (F)=(B)+(C)+(D)+(E)	空き家率 (F)/(A) %
	二次的住宅 (B)	賃貸用の住宅 (C)	売却用の住宅 (D)	その他の住宅 (E)		
81,950	840	3,370	750	4,680	9,630	11.8

(H29 年「鎌倉市空家等対策計画」より)

### ○障がい者

鎌倉市の空き家を活用して、市内在住の知的障がいの中度・軽度の人を中心に家電製品の廃棄物のリサイクルを手分解による作業で、部品の回収率を 80%~90 パーセントに引き上げる。

(廃家電リサイクル率 テレビ 99%、洗濯機 90%、エアコン 93%、冷蔵庫 75%)

千葉県印西市の(株)本塾共進のホームページより抜粋)

廃家電の解体に関しては、機械による集中処理では平均 50 パーセントの回収率。

この回収の差額を分解するメンバーの収入に当てる。

2-1-1 障害者手帳所持者数の推移

単位:人

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	合計
平成 25 年度 (2013 年度)	5,010	861	1,010	6,881
(構成比率)	(72.8%)	(12.5%)	(14.7%)	(100%)
平成 26 年度 (2014 年度)	4,994	904	1,090	6,988
(構成比率)	(71.5%)	(12.9%)	(15.6%)	(100%)
平成 27 年度 (2015 年度)	5,069	915	1,159	7,143
(構成比率)	(71.0%)	(12.8%)	(16.2%)	(100%)
平成 28 年度 (2016 年度)	4,943	933	1,186	7,062
(構成比率)	(70.0%)	(13.2%)	(16.8%)	(100%)
平成 29 年度 (2017 年度)	4,974	983	1,241	7,198
(構成比率)	(69.1%)	(13.7%)	(17.2%)	(100%)
前年度比	100.6%	105.4%	104.6%	101.9%
上記年度期間の 増減率	▲0.1%	▲0.1%	▲0.1%	▲0.1%

(資料) 障害福祉課

(H30 年「第 3 期鎌倉市障害者基本計画」より)

2-1-2 年齢区分別障害者手帳所持者数の状況

単位:人

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	合計
18 歳未満	105	274	20	399
(構成比率)	(2.1%)	(27.9%)	(1.6%)	(5.5%)
18~39 歳	165	392	341	898
(構成比率)	(3.3%)	(39.9%)	(27.5%)	(12.5%)
40~64 歳	839	257	702	1,798
(構成比率)	(16.9%)	(26.1%)	(56.6%)	(25.0%)
65 歳以上	3,865	60	178	4,103
(構成比率)	(77.7%)	(6.1%)	(14.3%)	(57.0%)
合計	4,974	983	1,241	7,198
	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)

(資料) 神奈川県精神保健福祉センター、障害福祉課

平成 29 年 (2017 年) 4 月 1 日現在

### ○洗車サービス

日本洗車技術指導協会が川崎国際生田緑地ゴルフ場 (川崎市) で先進的に導入。働き手は、職歴が十人十色の地域の高齢者であり、徒歩または自転車で通勤する。鎌倉市においても応用が可能。

### ○鎌倉郷土玩具づくり

鎌倉を訪れた人や、鎌倉で生まれた子供たち・親世代が郷土玩具を購入することでシニア層とのつながりが生まれる。鎌倉に愛着を持った方が市内で活躍できる場を鎌倉市に用意し、市内で働きたいシニア層のニーズを満たす。

**(3) アイデア実現までの流れ (公開)**

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ)** の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

少子高齢化が進行する中で、鎌倉市の成長力を確保していくためにも、

意欲のある高齢者のコミュニケーションの場の立ち上げと

労働するための場の提供することが必要。

⇒すなわち、鎌倉市内にある空き家の活用

鎌倉独自のケータイを活用したアプリの立ち上げ (かまサポ)

運営は、NPO 法人 または 事業者

目的 迅速に、効率的にコミュニティの情報を探ることができる

情報の発信、シビックシティにまたがる関連情報をワンストップで配信、閲覧。

アプリの開発・プログラミングは文教大学情報学部依頼

○**実現までの大まかな流れ**

	空き家	アプリ開発	シニアの就労	障がい者の就労	その他
1 年目	空き家を探す相談を鎌倉市に	コミュニティの運営をスムーズにするための ICT 化。文教大学の情報学部依頼のお願い	シニアのための、わが町の便利屋さんの実施に向けた内容の確立	障がい者の関係者への聞き取り、印西市の会社への視察	
2 年目	空き家の具体的なリストアップ、コワーキングスペースの立ち上げ・シニア世代にコミュニティの場を提供、テレワークの開始	鎌倉の地域アプリ「かまサポ」の立ち上げ	シニア世代への説明会、就労の呼びかけ	関係者の手分解の廃家電リサイクル現場の視察	事業者・NPO 法人の資金作りのための「まちづくり」クラウドファンディングの立ち上げ
3 年目	コワーキングスペースの運営・(シニア世代または NPO による運営)	地域アプリ「かまサポ」の運営開始	シニア世代の「わが町の便利屋さん」の運営開始	障がい者の仕事始め、職場の確保。運営の開始	事業者・NPO 法人の具体的な運営の開始